

講義コード	2J012012
講義名	スポーツコーチング論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2407.ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員

寺岡 祐助

講義の目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学び、自身の将来を考え、自己確立する。

到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。
自己確立の重要性を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自分とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

成績の評価

授業内レポート

期末試験（レポート）

自己学習

授業内レポートで記載した内容を実行に移すこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー・JATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。資格受験のために必要な科目になっています。

テキスト

日本体育協会公認共通科目テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ

参考文献

講義中に紹介します。

オフィスアワー

木曜日の午前中

研究室

診療・研究棟 3 階教員室

授業用E-mail

teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	2J013012
講義名	スポーツトレーニング論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2406.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員

寺岡祐助 五十嵐純

講義の目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータルなコンディショニングを計画的に実践していくことが不可欠である。コンディショニングとは、競技力を高めるために必要なあらゆる要素を改善および調整していくことであり、体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防および対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チームの運営・管理など、非常に多くのものが含まれる。

本講義ではスポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高められるために行うトレーニング全般について学習する。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。

授業計画表

授業計画

1. トレーニングとは何か？
2. 体力とは何か？（行動体力 防衛体力）
3. 体力とは何か？（行動体力の種類と特性）
4. スポーツパフォーマンスと体力
5. トレーニングの原理・原則
6. トレーニング処方
7. ウォーミングアップとウォームダウン
8. トレーニングの種類（形態別分類）
9. 体力要素による分類
10. 指導計画の立て方
11. スポーツ活動と安全管理
12. 対象に合わせたスポーツ指導（中高年者）
13. 対象に合わせたスポーツ指導（女性とスポーツ）
14. 対象に合わせたスポーツ指導（障害者とスポーツ）

15. 発育発達期の身体的特徴
16. 発育発達期の心理的特徴
17. 発育発達期に多いケガや病気
18. 発育発達期のプログラム
19. スポーツバイオメカニクスの基礎
20. トレーニング理論とその方法 (トレーニングの考え方)
21. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング)
22. トレーニング理論とその方法 (スピードトレーニング)
23. トレーニング理論とその方法 (持久力トレーニング)
24. トレーニング理論とその実際 (トレーニング目標の設定)
25. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計)
26. 体力テストとその活用
27. 体力テストとその活用
28. スキルの獲得と獲得過程
29. スキルの獲得と獲得過程
30. まとめ

成績の評価

平常点30% レポート30% 定期試験40%

自己学習

日頃の実践を心がける

履修上の注意

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者」「日本体育協会公認スポーツプログラマー」を受験する学生は当科目を履修しなければなりません

テキスト

『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 健康運動実践指導者養成用テキスト

オフィスアワー

木曜日の昼休み

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	2J023012
講義名	スポーツ社会学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2408.ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員

中尾哲也

講義の目的

スポーツ社会への関わり方を考える基礎作りをする。

到達目標

様々なスポーツシーンから、今後のスポーツへの関わり方を考えられるようにする。

授業計画表

授業計画

1. スポーツの概要と歴史、文化としてのスポーツ
2. スポーツタレント発掘事業
3. 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
4. 総合型地域スポーツクラブの必要性
5. 地域における「スポーツ少年団」
6. 社会の中のスポーツ（スポーツプロモーション）
7. 日本スポーツ振興センター、ナショナルトレーニングセンター
8. JOC事業、国立スポーツ科学センター
9. 総合型地域スポーツクラブの運営
10. スポーツ組織の運営と事業
11. スポーツ財団
12. スポーツ指導者としてのあり方を考える
13. 我が国のスポーツ振興施策
14. 広域スポーツセンターの機能と役割
15. まとめ

成績の評価

毎回の授業（映像や講義内容）レポートにより評価します。レポートには、その日に行われた授業内容のキーワードを出して頂きます。

自己学習

様々なスポーツに目を向けてみる。

履修上の注意

提出するレポート用紙（ルーズリーフ可）を個人で準備する。

テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ」 日本体育協会

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 (412)

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2J061012
講義名	運動生理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J2-2008.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

運動生理学の基本は生理学である。生理学が「安静時の人体の生理学」であるのに対して、運動生理学は「運動する人体の生理学」であり、安全で効果的なスポーツ活動の実施、指導を行う上で重要な学問である。従って、本講義では、スポーツ活動が身体の生理機能に及ぼす影響に関する基礎知識の習得を目的とする。

到達目標

運動することによる生理機能に及ぼす影響を理解し、健康維持増進や身体諸機能の向上に関する運動指導についても考えられるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 筋収縮とエネルギー供給系 1
2. 筋収縮とエネルギー供給系 2
3. 筋収縮とエネルギー供給系 3
4. 筋組織の種類と特徴 1
5. 筋組織の種類と特徴 2
6. 神経系の役割 1
7. 神経系の役割 2
8. 筋の収縮様式と筋力 1
9. 筋の収縮様式と筋力 2
10. 筋の収縮様式と筋力 3
11. 運動と循環 1
12. 運動と呼吸 1
13. 運動と呼吸 2
14. 幼少期から思春期、高齢期の身体機能の変化
15. 筋持久力の測定と考察（実習）

成績の評価

筆記試験：70%
平常点（実習とレポート）：30%
（再試験では筆記試験のみで評価）

自己学習

運動中に生じる様々な生体反応に興味を持ち、講義で学んだことを自分の身体で体験すること。

履修上の注意

この講座で学ぶ知識は、医学、柔道整復学だけでなく、健康スポーツ学を理解するためにはなくてはならないものである。したがって、自分が将来行うであろう臨床、運動指導への展開を考えながら積極的に学んで欲しい。
レポートを作成するには、15回目の筋持久力の測定と考察（実習）の参加が必須となります。
「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須です。

テキスト

「入門運動生理学 第4版」 （杏林書院）
勝田茂 編著

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	2J067012
講義名	英語表現法Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員

亀 節子

講義の目的

基礎英語力とリスニング力の強化を主目的とする。同時に、英語の苦手な学生に対して、英語学習への興味を育むことを目指す。

到達目標

英語でも日本語でも、「言葉は感情や人格の発露である」という言語活動の奥にある基本的な性質を理解することによって、異文化や外国語への積極的な関心を身につけること。

授業計画表

授業計画

- 1.UNIT1 《Thank you for～》
- 2.UNIT1 《Mark Twain》
- 3.UNIT2 《look up to～》
- 4.UNIT2 《Baseball》
- 5.UNIT3 《Why don't we do?》
- 6.UNIT3 《Colonists》
- 7.UNIT4 《What is ~like?》
- 8.UNIT4 《Apple pie》
- 9.UNIT5 《How about~?》
- 10.UNIT5 《Disney land》
11. 《Bells of Notre Dame》 鑑賞
- 12.UNIT11 《be used to ~》
- 13.UNIT11 《Cajun food》
- 14.UNIT12 《Noun&Article》
- 15.UNIT12 《Hamburger》

成績の評価

定期試験での成績、および受講態度などの平常点、この両者にて評価を行う(試験70%・平常

点30%)。

自己学習

予めテキストに目を通して単語の確認を済ませておけば学習効果が増す。

履修上の注意

辞書の持参については、各自の判断に委ねる。

テキスト

"SNOOPY'S World of English" (朝日出版社)
その他、プリントを配布する。

参考文献

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室

管理棟2階 204研究室

授業用E-mail

skame@kansai.ac.jp

講義コード	2J068011
講義名	英語表現法Ⅳ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員

亀 節子

講義の目的

基礎英語力とリスニング力の強化を主目的とする。同時に、英語の苦手な学生に対して、英語学習への興味を育むことを目指す。

到達目標

英語でも日本語でも、「言葉は感情や人格の発露である」という言語活動の奥にある基本的な性質を理解することによって、異文化や外国語への積極的な関心を身につけること。

授業計画表

授業計画

- 1.UNIT13 《I wonder if～》
- 2.UNIT13 《Washington》
- 3.UNIT14 《really～》
- 4.UNIT14 《Melting Pot》
- 5.UNIT15 《be surprised》
- 6.UNIT15 《Native Americans》
- 7.UNIT16 《unless》
- 8.UNIT16 《Luther King》
- 9.UNIT17 《I don't know if～》
- 10.UNIT17 《Jazz》
11. 《Ms.Scrooge》鑑賞
- 12.UNIT18 《That's why～》
- 13.UNIT18 《Blues Songs》
- 14.UNIT19 《do one's best》
- 15.UNIT19 《The Mississippi》

成績の評価

定期試験での成績、および受講態度などの平常点、この両者にて評価を行う(試験70%・平常

点30%)。

自己学習

予めテキストに目を通して単語の確認を済ませておけば学習効果が増す。

履修上の注意

辞書の持参については、各自の判断に委ねる。

テキスト

"SNOOPY'S World of English" (朝日出版社)
その他、プリントを配布する。

参考文献

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室

管理棟2階 204研究室

授業用E-mail

skame@kansai.ac.jp

講義コード	2J069012
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J2-2201
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

担当教員

尉林 鈴

講義の目的

現代社会に生きる人々が遭遇する多くの疾病と健康課題について理解すると共に、それらの予防方法や、現在実施されている医療保健対策の仕組みと意義について学習すること。

到達目標

医学の基礎知識と予防医学の専門技法の両方を身につけた公衆衛生のスペシャリストを目指すこと。

授業計画表

授業計画

- 第1回： 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
- 第2回： 健康の概念・健康観
- 第3回： 人口構造、衛生統計
- 第4回： 疾病予防と健康管理の方法
- 第5回： 疾病とリスク要因、集団検診の意義
- 第6回： 感染症の概念と発症条件
- 第7回： 感染症の種類と予防対策
- 第8回： 感染症法、検疫法、予防接種法
- 第9回： 消毒方法の選択と適応条件の見極め
- 第10回： 消毒方法の応用
- 第11回： 地球規模の環境問題の実態、公害訴訟
- 第12回： 物理的・化学的環境要因、および大気汚染による健康への影響
- 第13回： 上水と下水の衛生、住居の衛生
- 第14回： 食中毒・食品衛生、栄養状況の実態、廃棄物処理
- 第15回： 総括・まとめ

成績の評価

定期試験の成績^{90%}，平常の小テスト成績^{10%}にて評価する。

自己学習

本講座の中心的なテーマである健康課題や予防方法は時代と共に変化するものであり、行政側は常に国民のニーズに合わせて医療保健対策や制度を改善させていかなければならない。そこで履修者の諸君には授業内容と合わせて、日頃から新聞やテレビなどのメディアで取り上げられた保健情報について、より専門的な視点から注意を払って欲しい。

履修上の注意

上記の内容については所定のテキストを中心に講義を行うが、必要に応じてプリントの配布とビデオ鑑賞などを調整しながら進行していく。また、本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出欠をとり、不定期に小テストを実施する。

テキスト

「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」（南江堂） 社団法人全国柔道整復学校協会監修

参考文献

2016/2017年「国民衛生の動向（厚生指標 臨時増刊）」 財団法人厚生統計協会

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	2J070012
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J2-2202
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

担当教員

尉林 鈴

講義の目的

公衆衛生学Ⅰに続いて本講座では、母子保健や、学校保健および労働衛生分野に多くみられる職業病や生活習慣病、及び精神衛生等の現状を理解すると共に、それらの健康課題に対応する衛生行政および保健医療の制度、国際保健の動向についても学習する。

到達目標

医学の基礎知識と予防医学の専門技法の両方を身につけた公衆衛生のスペシャリストを目指すこと。

授業計画表

授業計画

- 第1回： 母子保健の意義、母子保健の健康指標と現状
- 第2回： 母子保健対策・母子保健事業の成果と今後
- 第3回： 学校保健①：学校保健の対象、保健教育と保健管理活動、学校感染症予防
- 第4回： 学校保健②：保健管理活動の実際、健康状況の統計
- 第5回： 産業保健①：最近の職場の特徴、労働災害の現状と予防、労働衛生の3管理
- 第6回： 産業保健②：職業病および作業関連疾患の予防、職場における健康診断と健康増進
- 第7回： 成人・高齢者保健①：日本人の死因構造、生活習慣病の特性
- 第8回： 成人・高齢者保健②：保健福祉対策、介護保険制度
- 第9回： 精神保健福祉対策の歩み、精神保健福祉法
- 第10回： 主な精神疾患の特徴、精神障害の医療とその動向
- 第11回： 地域保健、プライマリ・ヘルス・ケアとヘルスプロモーション、国際保健・WHOの保健事業
- 第12回： 衛生行政・保健所と市町村保健センターの役割、国民健康づくり（健康日本21第2次）の意義
- 第13回： 医療保険制度、医療計画、公費医療と国民医療費の分析
- 第14回： 医療の倫理と安全の確保
- 第15回： 総括・まとめ

成績の評価

定期試験の成績90%, 平常の小テスト成績10%にて評価する。

自己学習

本講座の中心的なテーマである健康課題や予防方法は時代と共に変化するものであり、行政側は常に国民のニーズに合わせて医療保健対策や制度を改善させていかなければならない。そこで履修者の諸君には授業内容と合わせて、日頃から新聞やテレビなどのメディアで取り上げられた保健情報について、より専門的な視点から注意を払って欲しい。

履修上の注意

上記の内容についてはテキストを中心に講義を行うが、必要に応じてプリントの配布とビデオ鑑賞などを調整しながら進行していく。また、本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出欠をとり、不定期に小テストを実施する。

テキスト

「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」 (南江堂) 社団法人全国柔道整復学校協会監修

参考文献

2016/2017年「国民衛生の動向(厚生指標 臨時増刊)」 財団法人厚生統計協会

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	2J078021
講義名	外科各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2105.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員

金井成行

講義の目的

臨床の場においてチームを実践する一員として、患者・家族とはもちろん職場同僚や他職種、とりわけ医師、看護師、他技師職などと疾患、病状の現症、回復状態、治療方針、治療のゴールに関する意思疎通は重要である。本授業では、外科疾患に関する疾患について、原因、症状、診断、外科治療を解説し理解を求める。

到達目標

臨床の外科医と同等レベルの知識の習得

授業計画表

授業計画

1. 前期の復習 (1)
2. 前期の復習 (2)
3. 前期の復習 (3)
4. 心肺蘇生
5. 全身麻酔
6. 局所麻酔
7. 脳神経外科疾患—頭部外傷 (1)
8. 脳外科疾患—脳血管障害 (2)
9. 胸部の外傷 (1)
10. 胸部の外傷 (2)
11. 腹部の外傷 (1)
12. 腹部の外傷 (2)
13. 交通外傷
14. 急性腹症
15. まとめ

成績の評価

授業態度等を勘案し、毎回の小テストが大きく評価対象になる

履修上の注意

国家試験対策を中心に、毎回小テストを行う

テキスト

「外科学概論」 (南江堂)

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室

診療・研究棟4階409研究室

授業用E-mail

kanai@kansai.ac.jp

講義コード	2J120012
講義名	健康運動実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2404.HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹尾 吉枝	指定なし

担当教員

竹尾 吉枝

講義の目的

有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。有酸素運動として一般的に行われている一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、ストレッチングの実際についても学習する。

到達目標

基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくり。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス、エアロビックダンスの背景・特性、初級プログラムの実践
2. クラス形式と授業順序の重要性、初級プログラムの実践
3. キューイングテクニック、初級プログラムの実践
4. メインエクササイズの部分指導演習
5. 正しい姿勢と筋強化エクササイズの必要性、初中級プログラムの実践
6. エアロビックダンスの運動処方、初中級プログラムの実践
7. 指導の循環、初中級プログラムの実践
8. ウォームアップの部分指導演習
9. プログラム作成上の留意点、音楽について、中級プログラムの実践
10. 自重で行う筋力強化エクササイズの指導法、中級プログラム
11. ストレッチングの指導法、中級プログラム
12. 授業前の指導とプレゼンテーションテクニック、グループテスト練習
13. 健康運動実践指導者実技模擬試験
14. 健康運動実践指導者実技模擬試験
15. 健康運動実践指導者理論対策

成績の評価

実技試験で設定した課題への到達度と授業への取り組む姿勢などで評価する。

平常点：50%、実技点：45%、態度点：5%

- ・小課題実技を2回実施し、1回につき10%とする。
- ・学期末課題実技は1回実施し、25%とする。

自己学習

授業4～5回毎に修了確認とする課題を実施する。課題の前週には練習を行い、実演の留意点の資料を配布する。その資料を参考に各自、計画的に自主学習に取り組むことが望ましい。

履修上の注意

実技授業のため、授業の全部が見学の場合は不可とする。見学・遅刻、途中退出は平常点より減点する。

ウェアは骨格筋肉の動きがわかる大きすぎることなく動きやすい、かつ吸水率・通気性の高いものを着用すること。その他の持ち物は、室内シューズ（衝撃吸収性が高く、適度な柔軟性があるものが望ましい）と大きめのタオル、筆記用具。肩にかかる長髪は束ね、大きめのイヤリングやネックレスは非装着とする。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修する必要がある。当該科目は、その養成講座、「10. エアロビック運動の理論と実際（実技）」および「11. ストレッチングの理論と実際」の内容を含む。(公財)日本体育協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修する必要がある。当該科目はその養成講座の専門科目「1. フィットネス・エクササイズの理論と実際」の内容を含む。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」

(公財)健康・体力づくり事業財団

参考文献

「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」

(公財)日本フィットネス協会 高順姫他著

講義コード	2J121012
講義名	健康運動実習 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J2-2405.HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 朝海 伯子	指定なし

担当教員

朝海 伯子

講義の目的

1. 健康づくりを目的とした水中運動の理論を理解する
2. 安全かつ効果的な水中運動を習得する
3. 自ら見本を示せる実技能力と集団に対する運動指導を習得する

到達目標

健康運動実践指導者の指導実技試験内容（水中運動）を行えるようにする

授業計画表

授業計画

1. 注意事項 授業説明 水なれ 水中運動実技
2. 水中運動の理論 水中運動実技
3. 水中運動の理論 水中運動実技
4. 水中運動の理論 水中運動実技
5. レジスタンス運動 水中運動実技
6. レジスタンス運動 水中運動実技
7. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
8. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
9. 水中運動実技 指導実技
10. 水中運動実技 指導実技
11. 水中運動実技 指導実技
12. 水中運動実技 指導実技
13. 試験日
14. 試験日

成績の評価

試験日に水中運動（3分間）の指導実技テストを行う。技術の修得及び、説明能力・表現・指導力・適応能力を総合評価する。

試験 %・平常点 %

自己学習

水中運動の目的・方法を理解し、説明する練習をする。

履修上の注意

水泳帽子着用・毎回出欠確認・準備運動後の遅刻は見学参加・無断退出は欠席・自動車通学禁止・見学参加はレポート提出・移動時注意する・準備、後片付けは班ごとで行う・水着は体にフィットしたものを着用・施設への移動時、各自で安全確認すること

なお、「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」

(財)健康・体力づくり事業財団

講義コード	2J152011
講義名	子どもの健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J2-2302
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美 西田 紀子他

講義の目的

子どもは成長発達の途上であり、子どもを取り巻く環境との相互作用において健やかな成長発達を遂げる。子どもが健やかに成長発達するためには、子ども期の発達段階に応じた支援が必要になる。この科目では、成長発達の一般的原則と基礎知識を理解するとともに実際の子どもの発達を促す企画、実施を行い子どもへの関心を深める。

到達目標

1. 成長発達の原理原則と基礎知識を説明することができる。
2. 子どもの発達を促すための企画、実施をすることができる。
3. 子どもの成長発達と環境との相互作用を述べるすることができる。

授業計画表

授業計画

1. 生涯人間発達からみた各子ども期の特徴
2. 成長発達の一般的原則と基礎知識
3. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達①
4. 乳児期、幼児期の精神的発達①
5. 乳児期、幼児期の精神的発達②
6. 乳幼児期の日常生活と社会的発達
7. 学童期、思春期の特徴
8. 子どもの特徴と事故予防
9. 精神的発達と遊びの意義
10. 幼児期の子どもの自己表現の特徴
11. 幼児期の子どもの発達を促す企画①
12. 幼児期の子どもの発達を促す企画②
13. 幼児期の子どもの発達を促す企画③
14. 幼児期の子どもの発達を促す企画実施
15. 企画実施グループ発表、まとめ

成績の評価

期末試験(80%) 企画実施(20%)

自己学習

- ・復習する習慣をつける。

履修上の注意

- ・毎回の授業に目的意識をもって臨む。
- ・配布された資料は毎回持参すること。

テキスト

テキストは指定しない。

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	2J155011
講義名	社会福祉論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡辺 元嗣	指定なし

担当教員

渡辺 元嗣

講義の目的

近年、社会福祉は地域での保健・医療と深く連携しており、医療関係者の教育においては、社会保障制度のみならず、医療活動と社会福祉・社会保障との接点を学ぶことが必要とされている。社会福祉を学ぶことは、現場での活動をさらに充実させるために必要不可欠なものになっている。講義では、社会福祉の諸施策について、その仕組み、現状、法制度等について概説するとともに、社会福祉・社会保障の具体的事例を積極的に取り入れ、よりよい援助活動が展開できる資質を養う。

到達目標

社会福祉の諸施策について、その仕組み、現状、法制度等について基本的な知識を学ぶとともに、社会生活のなかで社会福祉・社会保障の内容がどのように問われているのか、具体的問題事例をとおして、社会福祉・社会保障と社会生活の接点を考える力と資質を養う。

授業計画表

授業計画

1. 生活と福祉 社会福祉の考え方
2. 社会保障の概念・歴史・制度体系
3. わが国の社会保険制度①：社会保険の役割と制度の分類
4. わが国の社会保険制度②：保険医療制度
5. わが国の社会保険制度③：介護保険制度
6. わが国の社会保険制度④：年金保険制度
7. わが国の社会保険制度⑤：労働保険制度
8. 社会福祉の歴史①ヨーロッパ・アメリカ
9. 社会福祉の歴史②日本
10. 社会福祉の諸制度と施策①：生活保護法と施策
11. 社会福祉の諸制度と施策②：児童福祉と施策
12. 社会福祉の諸制度と施策③：障害者の福祉施策
13. 社会福祉の諸制度と施策④：高齢者の福祉施策

14. 社会福祉行政の仕組み

15. 社会保障・社会福祉改革の動向

成績の評価

- ・必要に応じてレポート課題を実施する。
- ・平常点、レポート等及び期末試験の成績等で総合的に評価する。

自己学習

下記の文献などを参考に、社会福祉に関心を持つとともに、授業で学んだことを日常生活の中で考える習慣をつけよう。

履修上の注意

社会福祉について具体的に学ぶ場面、考える場面も用意する。
積極的な参加を期待する。

テキスト

教材として、毎回、印刷物を配布する。

参考文献

「新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉」(メヂカルフレンド社) 山崎泰彦 編集

その他、講義の中で紹介します。

講義コード	2J169022
講義名	情報科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員

中村正信

講義の目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し、働くものとして能率良く必要かつ有用な情報を入手し、それらを整理し、分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

授業計画表

授業計画

1. 情報社会のセキュリティ、コンピュータの基本操作
2. ワードプロソフトの利用-文章作成と管理 1
3. ワードプロソフトの利用-文章作成と管理 2
4. ワードプロソフトの利用-一般文章の作成
5. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
6. ワードプロソフトの利用-既存データの利用
7. 表計算ソフトの利用-表作成 1
8. 表計算ソフトの利用-表作成 2
9. 表計算ソフトの利用-編集操作
10. 表計算ソフトの利用-数式・関数の活用
11. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
12. プレゼンテーションソフトの利用 1
13. プレゼンテーションソフトの利用 2
14. 総合演習
15. まとめ

成績の評価

試験約50%・授業中提出物約40%・平常点約10%

自己学習

コンピュータの習熟度は個人のこれまでの学習経験などによって大きな開きがある。講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているため、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

履修上の注意

この講義はコンピュータを常に操作する実習形式をとるので、欠席しないこと。また課題を授業中の指定の時間内に完成できなかった場合は、できたところまでを提出すること。多くの課題は互いに関連性が大きいので、完成できなかった課題や、出席できなかった日の課題については、各自速やかに自習しておくこと。なお、講義に用いるサンプルはテキストに基づいているので、講義中も参照できるようにテキストを準備しておくこと。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」(noa出版)

参考文献

「情報利活用コンピュータリテラシー」(日経BP社)

noa出版、日経BP社等のテキスト

オフィスアワー

木曜日放課後(17:00~18:30)

なお希望者は予めE-mail等で場所を確認してください。

授業用E-mail

nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	2J199011
講義名	整形外科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2106.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員

金井成行

講義の目的

整形外科に関する疾患について原因、症状、診断、治療を解説し理解を求める

到達目標

整形外科医と同等の知識を備える

授業計画表

授業計画

1. 整形外科学とは
2. 関節・軟骨・運動器の疾患
3. 変形関節症・リウマチ
4. 神経損傷・脊髄損傷
5. 骨軟部の腫瘍
6. 骨折の治療
7. 頸椎疾患
8. 胸椎疾患
9. 腰椎疾患
10. 股関節疾患
11. 膝関節疾患
12. 下肢（足）の疾患
13. 上肢（手）の疾患
14. 肩の疾患
15. まとめ

成績の評価

試験70%、レポート30%

自己学習

学習範囲は広いので事前にシラバスに沿って予習が肝要である

履修上の注意

授業に参加する発言は歓迎するが、関係のない私語は厳禁

テキスト

整形外科学（南江堂）

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室

診療・研究棟4階409研究室

授業用E-mail

kanai@kansai.ac.jp

講義コード	2J200011
講義名	整復学各論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J2-3002
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員

井口 理

講義の目的

胸骨・肋骨・鎖骨・肩甲骨の骨折、肩鎖関節・胸鎖関節・肩関節の脱臼に関する発生メカニズムから治癒までの経過を理解する。

到達目標

各部位の外傷の特徴を理解し、臨床および国家試験に必要な知識を身につける。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 頭部・顔面の骨折 1
3. 頭部・顔面の骨折 2
4. 頭部・顔面の骨折 3
5. 頭部・顔面の骨折 4
6. 頭部・顔面の脱臼 1
7. 頭部・顔面の脱臼 2
8. 胸部の骨折 1
9. 胸部の骨折 2
10. 上肢の骨折 (鎖骨) 1
11. 上肢の骨折 (鎖骨) 2
12. 上肢の脱臼 (鎖骨) 1
13. 上肢の骨折 (肩甲骨)
14. 上肢の脱臼 (肩関節) 1
15. 上肢の脱臼 (肩関節) 2

成績の評価

定期試験100%

自己学習

予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。

また柔道整復師国家試験に関わる科目の一つであり、来るべき国家試験に備えるものである。従って、板書に限らず口頭で話したことでもメモを取るように心がける。

また、整復学実技Ⅰの内容を実施することもある。

その他の受講上の注意事項については、随時伝達する。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し、将来的にその現場で活躍、貢献できるよう授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

テキスト

『柔道整復学（理論編）』（社）全国柔道整復学校協会編（南江堂）

『柔道整復学（実技編）』（社）全国柔道整復学校協会編（南江堂）

オフィスアワー

水曜日：放課後～18:00（在室時はいつでも対応します。メールでも構いません）

研究室

HPS教員室

授業用E-mail

iguchi@kansai.ac.jp

講義コード	2J201011
講義名	整復学各論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J2-3003
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤原 清治	指定なし

担当教員

藤原 清治

講義の目的

脊柱および上腕・肘関節部の損傷は、スポーツ現場においても遭遇する可能性が高い。実技を受講する前に必要となる各損傷の理論を学習する。

到達目標

各損傷の特徴を理解し、実技に反映できるように習得する。
また国家試験にも多数出題される範囲のため、資格取得に必要な知識を習得する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 脊柱の運動器について
3. 脊柱骨折
4. 脊柱骨折
5. 脊柱軟部組織損傷
6. 上腕の運動器について
7. 上腕骨骨折
8. 上腕骨骨折
9. 上腕骨骨折
10. 肘関節の運動器について
11. 肘関節脱臼
12. 肘関節脱臼
13. 軟部組織損傷
14. 軟部組織損傷
15. 総合復習

成績の評価

学科試験 (100%) により評価する。

自己学習

脊柱および上肢の運動器を予習。

履修上の注意

出欠の取り扱いや注意事項等は、初回授業で説明する。

テキスト

「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 (南江堂)

「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 (南江堂)

※必要に応じてプリントを配布する。

講義コード	2J205011
講義名	整復学実技Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員

井口 理

講義の目的

講義では、頭部・顔面の骨折、肩関節・顎関節の脱臼、肩部・顔面部の軟部組織損傷について、発生メカニズムから治療までの経過を理解する。

実技では、頭部・顔面・胸骨・肋骨・鎖骨・肩甲骨の骨折、顎関節・肩鎖関節・胸鎖関節・肩関節の脱臼、肩部軟部組織損傷に関して、整復法・固定法・検査法・鑑別法の基礎を修得する。

到達目標

各部位の外傷の特徴を理解し、国家試験に必要な知識を身につけるとともに、臨床に対応する知識と実技を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 固定具の製作（副子）
2. 固定具の製作（沈子）
3. 顎関節脱臼整復法
4. 顎関節脱臼固定法
5. 肋骨骨折整復・固定法
6. 鎖骨骨折整復法
7. 鎖骨骨折固定法
8. 鎖骨骨折特殊整復法
9. 鎖骨骨折特殊整復法
10. 肩鎖関節脱臼整復法
11. 肩鎖関節脱臼固定法
12. 整復法まとめ
13. 実技試験 1
14. 実技試験 2
15. 肩関節脱臼整復法
16. 肩関節脱臼固定法

17. 肩関節脱臼特殊整復法
18. 肩関節脱臼特殊固定法
19. 外傷性顎関節症、頭部・顔面打撲
20. 顎関節症
21. 胸部軟部組織損傷
22. 肩部及び上腕軟部組織損傷 1
23. 肩部及び上腕軟部組織損傷 2
24. 肩部及び上腕軟部組織損傷 3
25. 肩部及び上腕軟部組織損傷 4
26. 検査法 1
27. 検査法 2
28. 実技試験 1
29. 実技試験 2
30. 柔道整復術における研究領域

成績の評価

定期試験100%(但し、実技試験合格を以て定期試験の受験資格とする)

自己学習

実技試験は授業中に配布する実技マニュアルに従って行う。授業中に口頭で説明する注意事項などを書き込むこと。また、採点は厳しいものとなるので、正しい実技を身につけるようにしっかりと練習すること。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。また、実技科目は注意事項を理解し正しい整復実技を繰り返し練習することが不可欠である。従って、欠席してしまうと授業についていけなくなるので注意すること。また、常に疑問点を探しながら練習するよう心がける、疑問に思ったら質問すること。

なお、整復学各論Ⅰの内容を講義することもある。その他の受講上の注意事項については、随時伝達する。

その他の受講上の注意事項については、随時伝達する。

※実習中は必ず白衣着用のこと。

テキスト

『柔道整復学（理論編）』（社）全国柔道整復学校協会編（南江堂）

『柔道整復学（実技編）』（社）全国柔道整復学校協会編（南江堂）

実技マニュアル(授業中に配布する)

オフィスアワー

水曜日：放課後～18:00(在室時はいつでも対応します。メールでも可能です)

研究室

HPS教員室

授業用E-mail

iguchi@kansai.ac.jp

講義コード	2J206011
講義名	整復学実技Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3104
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤原 清治	指定なし

担当教員

藤原 清治

講義の目的

整復学各論Ⅱで学習した知識を基に、実際の損傷を想定して整復や固定の実技を行う。内容は特に遭遇する可能性の高い損傷を中心に学習する。

到達目標

各損傷を理解し、実際に整復や固定が施せるような実技を習得する。また固定具の作成や選択なども状況に合わせて行えるように習得する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 上腕骨外科頸骨折 整復実技 1
3. 上腕骨外科頸骨折 整復実技 2
4. 上腕骨外科頸骨折 整復実技 3
5. 上腕骨外科頸骨折 整復実技 4
6. 上腕骨顆上骨折 整復実技 1
7. 上腕骨顆上骨折 整復実技 2
8. 上腕骨顆上骨折 整復実技 3
9. 上腕骨顆上骨折 整復実技 4
10. 肘関節脱臼 整復実技 1
11. 肘関節脱臼 整復実技 2
12. 肘内障 整復実技 1
13. 肘内障 整復実技 2
14. 肘関節脱臼・肘内障 整復実技 1
15. 肘関節脱臼・肘内障 整復実技 2
16. 固定具作成 1
17. 固定具作成 2
18. 上腕骨外科頸骨折 固定実技 1

19. 上腕骨外科頸骨折 固定実技 2
20. 上腕骨外科頸骨折 固定実技 3
21. 上腕骨外科頸骨折 固定実技 4
22. 固定具作成 1
23. 固定具作成 2
24. 固定具作成 3
25. 肘関節脱臼 固定実技 1
26. 肘関節脱臼 固定実技 2
27. 肘関節脱臼 固定実技 3
28. 肘関節脱臼 固定実技 4
29. その他の整復・固定法 1
30. その他の整復・固定法 2

成績の評価

実技試験（100％）により評価する。

自己学習

整復学各論Ⅱで学習した各損傷の特徴や症状などを予習。

履修上の注意

出欠の取り扱いや注意事項等は、初回授業で説明する。

テキスト

「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 （南江堂）

「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 （南江堂）

実技マニュアル

※必要に応じてプリントを配布する。

講義コード	2J211011
講義名	整復治療学Ⅰ（実技）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3109
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし
非常勤	若野 正一	指定なし

担当教員

若野 正一(前期)・松浦 穰士(後期)

講義の目的

(前期)組織損傷を回復させる為の治療法の1つである手技療法として軽擦・揉捏・叩打・圧迫・振戦・伸展法などがある。これらの基本手技を繰り返し練習し、臨床に応用できる基礎技術を修得することを目標とする。

(後期)前期で習った手技療法の軽擦・揉捏・圧迫・叩打・振戦法を応用して、各種スポーツ障害に対するマッサージの修得を目的とする。また、筋肉を目的としたマッサージだけでなく、関節の拘縮、骨折や捻挫の後療に対する運動法や、筋・神経伸展法も併せて指導を行う。

到達目標

(前期)身体の各部位、個々の筋肉を正確に把握できる技術を身につける。

(後期)毎回の講義でマッサージの方法・姿勢をしっかりと頭に入れ、各自復習をして臨床に活かせる技術を身につける。

授業計画表

授業計画

(前期)

1. ガイダンス／授業を始めるための注意事項／マッサージの準備／各種技法
2. 実技を始めるための注意事項／頸部～腰部の軽擦法（伏臥位）／軽擦法について
3. 前週の復習／脊柱上の圧迫法／頸部の柔捏法／柔捏法について／按摩・指圧・マッサージの相違点
4. 前週の復習／肩上部の柔捏／肩甲骨内縁の柔捏／脊柱側の圧迫／脊柱側の柔捏
5. 前週の復習／腰部、背部外側から肩関節への柔捏／叩打法
6. 前週までの復習
7. 腰部、仙骨部の軽擦／腰仙部の圧迫／腰仙部の柔捏／殿部の圧迫／殿部の柔捏
8. 前週の復習／大腿後面の軽擦／大腿後面の圧迫／大腿後面の柔捏／下腿後面の軽擦／下腿後面の圧迫／下腿後面の柔捏
9. 前週の復習／アキレス腱の軽擦／大腿前面の軽擦／大腿前面の柔捏／膝蓋骨周辺の柔捏／膝

蓋骨の骨移動法

10. 前週の復習／下腿前面の軽擦／下腿前面・外側の柔捏／足背、足底、足指の柔捏
11. 前週の復習／肩関節、上腕の軽擦／三角筋の柔捏／上腕の柔捏／前腕の軽擦／前腕の柔捏／手掌の圧迫
12. 手背の柔捏／手指の柔捏／前週までの総復習／前期テストの概要
13. 前期テスト（実技）
14. 前期テスト（実技）
15. 臨床で役立つ知識やトピックス等
(後期)
 1. ガイダンス／基本手技の復習
 2. 手指・手部障害のマッサージ
 3. 手関節障害のマッサージ
 4. 肘関節・上腕部のマッサージ
 5. 手・肘関節の牽引性運動法
 6. 前腕部の神経・筋伸展法
 7. 肩関節のマッサージ
 8. 肩関節の牽引性運動法、肩・上腕部の神経・筋伸展法
 9. 足指部のマッサージ、足部のマッサージ
 10. 足関節・下腿部のマッサージ
 11. 膝関節・大腿部のマッサージ
 12. 足・膝関節の牽引性運動法、下腿・大腿部の神経・筋伸展法
 13. 股関節のマッサージ、股関節の牽引性運動法、殿部の神経・筋伸展法
 14. 前回までの総復習、実技試験の説明
 15. 実技試験

成績の評価

前期・後期の定期試験（実技）の平均で評価する。

実技の修得度については、実技試験と実習時の実技を見て評価する。また実技試験では、揉み方、圧迫の仕方、筋の理解度等について評価する。

さらに実習時の行動、実習態度、出欠状況も加味して総合的に評価する。

自己学習

(前期)次回講義範囲を講義中に伝えるので前もってテキストを見ておく事。

(後期)スポーツ障害に対する理解を深め、筋肉の起始・停止、靭帯、神経の走行を確認すること。

履修上の注意

本科目は実技が中心となるため、自発的かつ積極的に授業に望むこと。また、毎回の授業で出欠を確認する。授業時は上下共白衣着用する事。その他の受講上の注意事項については講義時間の中で伝達する。

テキスト

「スポーツマッサージ」 (KATA実技指導員著)

参考文献

(前期)「スポーツマッサージの技術と応用(ビデオ)」

スポーツクラブ協会編

(後期)「スポーツ東洋療法ハンドブック」 (医道日本社)

講義コード	2J212012
講義名	整復治療学Ⅱ（実技）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3110
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

担当教員

牛島 詳力

講義の目的

骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷など運動器の外傷からの回復の過程あるいは回復後、主としてスポーツなどの活動に復帰する際、再受傷を予防するためのテーピング法を習得する。

到達目標

各部位におけるテーピングの基本的な技術を獲得すること。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、テープの種類、基本的な扱い方
2. アンカーとブリッジ（肘関節1）
3. アンカーとブリッジ（肘関節2）
4. アンカーとブリッジ（手関節・指節間関節）
5. アンカーとブリッジ（膝関節1）
6. アンカーとブリッジ（膝関節2）
7. フィギュア8（拇指MP関節・足関節1）
8. フィギュア8とヒールロック（足関節2）
9. 足関節テーピングのバリエーション1
10. 足関節テーピングのバリエーション2
11. アーチ・シンスプリントのテーピング
12. 特殊なテーピング1
13. 特殊なテーピング2
14. 特殊なテーピング3
15. 実技試験

成績の評価

実技試験（足関節のテーピング、それ以外のテーピングから一つ、の計2種類）において、要した時間、機能性、美観の3要素それぞれについて合格点に達しているか否かで評価する。

自己学習

純粋に実技を学ぶ授業。苦手だと感じる技術があった場合は各自がそれぞれ時間・パートナーを見つけて練習すること。

履修上の注意

テーピング用のハサミ（先端が丸く加工されているもの）を持参することが望ましい。また実習中はいつでもモデルとしてTシャツ、短パンになれるような服装で受講すること。

参考文献

実習のなかで適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日昼休み、それ以外は要アポイントメント

研究室

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	2J261011
講義名	中国語Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 晃野 真季	指定なし

担当教員

晃野 真季

講義の目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課. 発音(1) 声調について
3. 第2課. 発音(2) 母音について
4. 発音・聞き取り練習
5. 第3課. 発音(3) 子音について
6. 有気音と無気音、発音・聞き取り練習
7. 第4課. 発音(4) 鼻母音(-nと-ng)・r化音について
8. 発音・聞き取り練習、練習問題を解き
9. 第1課～第4課 ピンインのルールをまとめ、習得度確認小テスト
10. ピンイン表でまとめ復習、リスニングテスト、前期末テストについて
11. 第5課. 出迎える
12. 復習、応用問題の練習、作文の準備
13. 第6課. 歓迎パーティー
14. 復習、応用問題の練習、作文の準備・発表
15. 前回続き、作文を発表する・前期末まとめ練習問題提出

成績の評価

学習態度、授業平常点、期末試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価す

る。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻³回・教科書忘れ¹回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

陳淑梅、劉光赤著

参考文献

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2J262011
講義名	中国語 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1307
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 晃野 真季	指定なし

担当教員

晃野 真季

講義の目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

授業計画

1. 前期授業をまとめ練習問題、作文の問題点について
前期授業内容をおさらいする
2. 第7課. タクシーに乗る
3. 確認小テスト、応用問題の練習
4. 応用問題の練習、前回続き
5. 第8課. 宿泊する
6. 確認小テスト、応用問題の練習
7. 応用問題の練習、前回続き
8. 第9課. 道を尋ねる
9. 確認小テスト、応用問題の練習
10. 応用問題の練習、前回続き
11. 第10課. ショッピングをする
12. 確認小テスト、応用問題の練習、レポートについて
13. 応用問題の練習、前回続き
14. 第11課. おしゃべりをする
15. 年度末まとめ練習問題提出、レポートについて、質問⇔回答

成績の評価

学習態度、授業平常点、期末試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価する。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻³回・教科書忘れ¹回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

陳淑梅、劉光赤著

参考文献

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2J276011
講義名	内科各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2104.H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員

津田和志

講義の目的

内科各論は内科診断学、総論で学んだ知識を基礎とし、内科系の各分野毎に代表的疾患について、それらの成因・病態生理・症状・検査、診断法・治療法を学習する。

到達目標

各種疾患に的確に対応できる総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

授業計画表

授業計画

1. 循環器疾患(1)
2. 循環器疾患(2)
3. 呼吸器疾患(1)
4. 呼吸器疾患(2)
5. 消化器疾患(1)
6. 消化器疾患(2)
7. 内分泌・代謝疾患(1)
8. 内分泌・代謝疾患(2)
9. 腎・泌尿器疾患(1)
10. 腎・泌尿器疾患(2)
11. 血液疾患
12. 免疫・アレルギー疾患、膠原病
13. 神経疾患(1)
14. 神経疾患(2)
15. 感染症

成績の評価

定期試験、ならびに授業態度等により総合的に評価する。

自己学習

教科書の予習
履修上の注意
基本的に欠席しないこと
テキスト
『一般臨床医学』 奈良信雄 他著（医歯薬出版）
参考文献
内科学（朝倉書店）
オフィスアワー
木曜日内科外来終了後（内科外来にて15:30頃より）。会議、出張が多いので事前連絡必要。
研究室
405
授業用E-mail
tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	2J279011
講義名	内科診断学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員

津田和志

講義の目的

内科診断学では内科学総論として、代表的な症候や症状、基本的身体診察技術、補助検査等について講義をする。

到達目標

病態の全体像を的確に判断し、さらに患者の身体的のみならず、精神、神経的な問題を的確に理解できる能力を養うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 疾病の概念
2. 内科診断学の目標
3. 診察手順
4. 面接、病歴のとり方
5. 現症のとり方
6. 各種検査法とそれらの意義
7. 主要症候とその鑑別(1)
8. 主要症候とその鑑別(2)
9. 主要症候とその鑑別(3)
10. 主要症候とその鑑別(4)
11. 主要症候とその鑑別(5)
12. 主要症候とその鑑別(6)
13. 主要症候とその鑑別(7)
14. 主要症候とその鑑別(8)
15. 主要症候とその鑑別(9)

成績の評価

定期試験、ならびに授業態度等により総合的に評価する。

自己学習
教科書の予習、復習
履修上の注意
基本的に欠席しないこと
テキスト
『一般臨床医学』 奈良信雄 他著（医歯薬出版）
参考文献
内科学（朝倉書店）
オフィスアワー
木曜日内科外来終了後（内科外来にて15:30頃より）。会議、出張が多いので事前連絡必要。
研究室
405
授業用E-mail
tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	2J297012
講義名	病因・病態学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

担当教員

畑村 育次

講義の目的

疾病の正しい理解、診断と治療のために、人体の疾病の成因 (Etiology) 、さらにどのような過程で人体に病気を発症させるかという発生機序 (Pathogenesis) を理解し、これらに基づき人体機能の異常と形態の異常の関連について正しい知識を身につけることを目的とする。

到達目標

本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、特に病理学概論について講義を行う。

授業計画表

授業計画

1. 疾患の内因 1
2. 疾患の内因 2
3. 疾患の外因 1
4. 疾患の外因 2
5. 細胞の損傷、虚血、低酸素、萎縮と変性 (1)
6. 細胞の変性 (2)
7. 老化と加齢
8. 黄疸、肥大、過形成、再生
9. 創傷治癒、化生、壊死、アポトーシス
10. うっ血、充血、浮腫
11. 脱水、ショック、出血
12. 血栓、塞栓、DIC1
13. 血栓、塞栓、DIC2
14. 炎症基礎 1
15. 模擬試験

成績の評価
定期試験100%
自己学習
病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる
履修上の注意
遅刻は厳禁。毎回確認テストを行います。
テキスト
授業レジュメを配ります。 『病理学概論』（医歯薬出版）
参考文献
『『ロビンズ基礎病理学』（廣川書店） 『標準病理学』（医学書院） 『わかりやすい病理学』（廣川書店） 『イラスト病理学』（文光堂） 『ゼットイわかる病理写真の読み方』医学教育出版社） 『病理組織の見方と鑑別診断』（医歯薬出版） 『シンプル病理学』 南江堂
オフィスアワー
木曜日 昼休み
研究室
診療・研究棟4階402研究室

講義コード	2J298012
講義名	病因・病態学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J2-2102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

担当教員

畑村 育次

講義の目的

人体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのような過程を経て病的変化が形成されていくかを知ることが、疾病の本質を理解する上で重要なことである。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、疾患の病因・病態を理解する

到達目標

この講義では病因・病態Ⅰの続きおよび各疾患の病因・病態について基本的な講義を行い、前期で学んだことをさらに発展させ疾患の基礎的理解を深める。各種疾病の病因や病態について、理解ができるようにするとともに、自ら考え得る能力を養うことをも目標とする。本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 炎症各論 1
2. 免疫の基礎 1
3. 免疫の基礎 2
4. 免疫 1
5. 免疫 2
6. インフルエンザ
7. 免疫異常・アレルギー
8. 自己免疫疾患 1
9. 自己免疫疾患 2・臓器移植
10. 腫瘍 1
11. 腫瘍 2
12. 腫瘍 3
13. 先天性疾患と遺伝性疾患 1

14. 先天性疾患と遺伝性疾患 2

15. 模擬試験

成績の評価

定期試験100%

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる

履修上の注意

遅刻は厳禁。毎回確認テストを行います。

テキスト

毎回授業レジュメを配ります。
『病理学概論』（医歯薬出版）

参考文献

『ロビンス基礎病理学』（廣川書店）
『標準病理学』（医学書院）
『わかりやすい病理学』（廣川書店）
『イラスト病理学』（文光堂）
『ゼットイわかる病理写真の読み方』医学教育出版社）
『病理組織の見方と鑑別診断』（医歯薬出版）
『シンプル病理学』 南江堂

オフィスアワー

木曜日 昼休み

研究室

診療・研究棟4階402研究室

授業用E-mail

i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2J418011
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 池田 裕明	指定なし

担当教員

池田 裕明

講義の目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法

14. 労働と法

15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニツツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2017年)」 (有斐閣)

参考文献

講義において紹介する

講義コード	2J419011
講義名	社会学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

担当教員

木村弘之

講義の目的

講義では、「社会学的なものの見方」について説明していきます。子育て、母親の役割、恋愛、結婚、うわさ話など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

到達目標

講義で紹介する「社会学的なものの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

授業計画表

授業計画

1. 社会学的な見方について
2. 夫婦関係における社会性① ジェンダーと性同一障害
3. 夫婦関係における社会性② 恋愛結婚と社会階級
4. 夫婦関係における社会性③ 結婚戦略と婚活
5. 親子関係における社会性① 母性は本能か
6. 親子関係における社会性② 3歳児神話について
7. 親子関係における社会性③ 母子同室制と育児の知識
8. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
9. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
10. 家族と社会③ 少子化社会の課題と可能性
11. 家族と社会④ 育児不安と児童虐待
12. メディアと社会① 食育とフードファディズム
13. メディアと社会② 都市伝説と世間
14. メディアと社会③ ナンバ歩行について
15. メディアと社会④ 社会の医療化

成績の評価

60

40

小レポートを %、期末レポートを %として評価します。

自己学習

講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみること。

履修上の注意

特にありません。

テキスト

毎回、プリントを配布します。

参考文献

講義の中で、適宜、紹介します。

講義コード	2J420011
講義名	教育学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

担当教員

北山 敏和

講義の目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことからについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、実践できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 ライフスキル教育と健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って実生活を改善向上させることが出来る

授業計画表

授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 公教育と私教育：学校と法律
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：学力についてのさまざまな考え方
6. 考える力と行動する力：私たちの人生とライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性

9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)心理社会的能力の現状
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画とサービス活動
13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
14. 教育と医療の協働：予防医学と健康教育
15. 健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

自己学習

毎授業後に授業のまとめとしてミニレポートを提出し、前期の中間と終了後の2回、課題についてレポートを提出する

履修上の注意

グループ活動を中心にアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備・後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること

テキスト

必要な場合には資料を配布する

参考文献

- 「よく分かる教育学原論」 (ミネルヴァ書房)
- 「育児の国際比較—子ども社会と親たち」 (日本放送出版協会)
- 「教育を原理する—自己に立ち返る学び」 (法政大学出版局)
- 「ライフスキル教育入門」 (風人社)
- 「対訳21世紀に生きる君たちへ」 (朝日出版社) 司馬遼太郎

授業用E-mail

heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	2J502011
講義名	包帯学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J2-3102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

講義の目的

包帯学Ⅰに引き続き、骨折、脱臼、打撲、捻挫等を取り扱う柔道整復師にとって欠かせない技術である包帯を学ぶ。

到達目標

包帯学Ⅰの上肢・体幹部に引き続き、下肢に対して、臨床上の目的に合った包帯を施すための基礎的技術を身につける。さらに、三角巾を代表とする布帛包帯を利用した身体各部位に対する包帯技術を習得し、固定法への応用につながる基礎的技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 巻軸包帯（趾・足部）
2. 巻軸包帯（足関節）
3. 巻軸包帯（踵）
4. 巻軸包帯（下腿・膝関節）
5. 巻軸包帯（大腿部・股関節）
6. 巻軸包帯応用、布帛包帯（基本）
7. 布帛包帯（頭頰部）
8. 布帛包帯（手・前腕）
9. 布帛包帯（肩・胸・提肘）
10. 布帛包帯（下腿・膝）
11. 復習
12. 試験
13. 試験
14. 布帛包帯（提肘応用・固定）
15. 固定応用

成績の評価

授業時間内に実施する試験（90%）と平常点（10%）により評価する。

自己学習

包帯は繰り返し練習すればするほどうまくなるので、既習部位については授業時間内外を問わず、完全にマスターするまで練習を繰り返すこと。また、人の体格は様々なので、なるべく多くの人を巻いてみる様に心がけること。

履修上の注意

実習時間は白衣を着用すること。

本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出欠を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。また、テキストの他、授業時に配布されたプリント、包帯は必ず持参すること。

その他の受講上の注意事項については、随時講義時間の中で伝達する。

テキスト

「包帯固定学」改訂第2版（南江堂）
社団法人 全国柔道整復学校協会 監修

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 金曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	2J503011
講義名	高齢者ケア論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J2-2303.H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし
非常勤	田中 章慈	指定なし

担当教員

田中章慈、岩井恵子

講義の目的

加齢に伴う身体的、精神的変化を把握し、高齢者特有の疾患とその病態を理解し、高齢者に対する健康増進、日常生活におけるQOL向上や身体機能の改善を図るための適切な介入や指導ができる医療者の養成を目的とする。

到達目標

- 1.加齢に伴う身体的・精神的変化を説明できる。
- 2.高齢者に特有な疾患について、病態・診断・治療を説明できる。
- 3.高齢者のライフスタイルが理解できる。
- 4.高齢者とのコミュニケーションの方法を理解できる。
- 5.介護保険制度を理解する。
- 6.認知症について説明できる。

授業計画表

授業計画

- 1.高齢者ケアに求められるものとは
- 2.高齢者の生理的特徴
- 3.老年症候群
- 4.高齢者のフィジカルアセスメント
- 5.高齢者の疾患の特徴
- 6.高齢者と薬剤
- 7.高齢者のリハビリテーション
- 8.高齢者の在宅医療
- 9.高齢者のライフスタイル
- 10.加齢が生活に及ぼす影響
- 11.高齢者とのコミュニケーション
- 12.介護保険制度とは

- 13. 認知症とは
- 14. 認知症が生活に及ぼす影響
- 15. 認知症高齢者の対応について

成績の評価

定期試験で評価する（100％）。

自己学習

復習を必ずする。

履修上の注意

*1回～8回は田中、9回～15回は岩井が担当する。

*わからないことは必ず質問等で解決する。

*講義内で資料等を配布するが、欠席した場合は、次の講義までに各自担当教員まで取りに行く。

テキスト

病態・疾患論（医学書院）

参考文献

講義内で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：昼休み メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

岩井：5号館7階C701号室